

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

長岡技術科学大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	5
《本文》	6
《判定結果一覧表》	27

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

長岡技術科学大学は、主に高等専門学校から学生を受け入れ、社会の変化を先取りする“技学”を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指して教育研究を展開してきた。

第3期中期目標期間では、技学に基づく地域や企業が抱える諸課題解決や、人材育成を先導する大学であるとともに、グローバル化の進展に対応し、強みとなる研究分野を中心に世界の技術科学を先導する、実践的教育研究の世界的拠点大学として、以下の教育研究活動を展開する。

（1）国際通用性を持つ実践的グローバル技術者育成の推進

海外展開をも可能とする国際通用性を持つ技学に基づく実践的グローバル技術者教育プログラムの整備と、それに基づく国内外での実践的グローバル技術者育成を推進する。

（2）世界をリードする先進的・創造的研究や分野融合型研究の推進

強みを持つ分野を中心に、世界トップレベルの研究を推進するための研究環境、支援体制を整備するとともに、技学に基づく産業界のニーズを先取りした先進的・創造的研究や分野融合型の研究を推進する。

（3）海外大学・産業界との強固なネットワークに立脚したグローバル化の推進

技学教育研究の世界拠点として、海外の次世代戦略地域に技学教育研究モデル、産学官連携モデルを展開して、グローバル産学官融合キャンパスの構築を進め、学生・教職員のグローバルな流動性を推進する。

（4）地域や企業が抱える諸課題解決への貢献

教育研究の成果を社会に還元することで、地域や企業が抱える諸課題の解決や地域が必要とする人材の育成に貢献するとともに、海外戦略拠点とのネットワークにより整備するグローバルな産学官連携環境を地域や企業に提供することにより、地域を世界に繋ぐ役割を果たし、地域活性化・地方創生に貢献する。

1. 教育

- ・高等専門学校からの学生を主な対象として、創設以来、1万人を超える大学院レベルの有意な実践的技術者を輩出してきた実績を活かし、産業界に役立つ高度な実践的・創造的グローバル技術者の育成、並びに技学（現実の多様な技術現象を科学の局面からとらえ直し、技術体系を発展させる技術に関する科学）の創成とそれに基づくイノベーションを起こすことのできる高度な研究開発力とマネージング力を有する産業創造リーダーの育成の役割を果たすことを目指している。

- ・国内外の企業等で幅広い視野からの総合的な技術感覚を養う5か月間の「実務訓練」（長期インターンシップ）を中心とした実践的グローバル技術者育成プログラムを開学当初から実施している。また、海外教育研究拠点を世界9ヶ国に設置し、GIGAKU教育研究ネットワークを構築し、各拠点のニーズに応えた人材育成を行う「グローバル産学官融合キャンパスの構築」事業の推進など、特色ある教育を進めてきた実績を活かすとともに、期間短縮の実質化や選抜による少数精鋭特別教育を実施して教育改革を進め、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院一貫教育を推進している。

- ・持続可能な開発目標(SDGs)の視点を取入れた教育プログラムを確立するため、「技学SDGインスティテュート」教育プログラムを構築して、国際社会での共通目標(SDGs)に関連するコンテンツを活用して教育を行い、世界共通の課題を解決するエンジニアの育成を推進している。

2. 研究

・本学の強み・特色となる「グリーンテクノロジー」「材料科学」、「電力工学（制御工学及びパワーエレクトロニクス）」の3研究分野をはじめ、多くの工学分野での高い研究実績を生かし、先端的な研究を分野融合的な連携の下で推進している。

3. 社会連携・地域連携、高専連携

・高等専門学校とのネットワークを活かした全国の地域と結びついた技学の拠点としての役割を担い、産業振興の推進に取り組むとともに、複数の自治体と包括的連携協定を締結して、人材交流、人材育成及び技術支援・指導を行っている。

・本学所在地の長岡市と、長岡市内3大学1高専との連携協定により、市街中心部に共有スペースを整備して他大学との合同授業、ベンチャー起業支援等のイベントを通じて地域の活性化と地域の振興に結び付く活動を行っている。

・住民を対象とする学びの機会提供の取り組みである「まちなかキャンパス長岡」への支援、小中学校・高校への理科教育支援等を通じ、地域や企業が抱える課題の解決、人材の育成に取り組んでいる。

4. 国際交流

・国内で初めてとなるツイニング・プログラム等、戦略的・先導的に進めてきた多数の留学生受入れ実績や技術者教育にかかわる多数の海外大学支援実績に基づき、更に積極的に外国人留学生を受入れてキャンパスの国際化を進め、日本人学生のグローバル化を推進するとともに、技学を基本とした技術者育成を目指す海外の高等専門学校・技術系大学の拡充・発展を主導的に支援している。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

○ 本学は、高度で実践的・創造的グローバル技術者を育成するため、学部入学者の多くを高専から編入学で第3学年に受入れ、学部・修士課程4年間の一貫教育を行っている。一般大学の工学部が学術指向であるのに対して、本学は技術・論理・実践力に長けた修士人材の育成と、PBL教育や実践的教育を重視する。学部1年入学生には、1・2年次における専門基礎科目の修学とともに、実習科目を多く学び、第3学年進学時には、編入学の学生と同レベルの実践的知識を修得する。本学の特徴である必修科目「実務訓練」や、海外での語学研修・リサーチインターンシップ等で得た体験は、専門教育で学んだ知識とともに経験値として蓄積されていく。これら取組は教員も例外ではなく、学内でのFD研修、海外での語学指導研修を行うことで教育の質を確保している。

本学は、平成30年10月、国連のアカデミック・インパクトSDGsハブ校のゴール9のハブ校に任命されたが、同年度、文部科学省の卓越大学院プログラムにも採択された。本学の強み・特長となる「材料科学」、「制御・電力工学」を融合させた「ルートテクノロジー」を「情報工学」の素養に基づき革新を起こし、かつ、アクティブ・ラーニングを超えた、組織をリードする問題解決型実証体験と、幾つもの失敗を克服し、打たれ強く困難に立ち向かうことのできる人材を育成する「グローバル超実践ルートテクノロジープログラム」コースを、5年一貫制博士課程学位プログラムに開設している。海外のトップ大学、民間企業等の外部機関と組織的連携を図り、SDGsの問題解決も図りながら、世界最高水準の教育・研究を進めている。

(関連する中期計画 1-1-1-1、1-1-3-3、1-1-4-1、
1-2-2-1、1-2-3-2)

○ スーパーグローバル大学創成支援事業「グローバル社会を牽引する実践的技術者養成プログラム」の目標達成に向け、本学及び海外学術交流協定校が連携し、現地コーディネーターを配置した海外拠点において、産学連携による技大式教育・研究モデルを発信するGIGAKU教育研究ネットワークの構築と、同拠点を活用した国際共同研究を通じて日系企業の海外展開

を人的・技術的に支援する GIGAKU テクノパーク (GTP) ネットワークの構築を進めている。

また、本学が目標とする、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力を備えた指導的技術者を育成するため、国連アカデミック・インパクトにおける SDGs ゴール9 のハブ大学としての取組を推進するとともに、SDGs の視点を取入れた「技学 SDG インスティテュート」教育プログラムを編成し実施している。

さらに、大学のグローバル化を進めるため、海外 118 の大学と学術交流協定を締結し、当該協定校を拠点とした日本人学生の派遣及び留学生を積極的に受入れ、毎年 500 名近い留学生（短期留学生を含む）が、国際色豊かな環境の中で、異文化理解・交流を行っている。また、約 20 年前に開始したマレーシアとのツイニング・プログラム制度は、現在、5ヶ国8大学にまでに拡大した。同制度を活用して毎年 40 名を超える留学生が編入学し、さらに修士課程に進学して、より専門性の高い教育研究指導を受けている。彼らは帰国後、企業、教育機関で活躍し、母国産業の発展に関わり、第一線で活躍する研究者、技術者、また、教育者となり、自国そして世界の技術発展に貢献している。

(関連する中期計画 1-1-2-3、2-1-2-1、3-1-1-2、
4-1-1-1、4-1-1-2)

- 研究戦略本部及び IR 推進室を設置し、本学が強み・特色とする技術を客観的データに基づき分析し、その研究領域に資源の重点的配分を行っている。また、若手研究員を育成して研究力を高めるための予算配分と指導体制を整備している。

第3期中期目標計画期間における本学の外部資金の獲得額は年々増加傾向となっており、本学の技術力が社会に求められた結果となった。外部資金は民間企業からだけでなく、連携強化した地方自治体からの支援も増え、地域産業の発展と活性化に寄与している。

また、高専との共同研究を推進するため、学長戦略経費による研究支援を行っている。年度末には、共同研究に関わった教員と、研究を補助した学生と研究成果を共有するための発表会を本学で開催し、教育と研究の両面において連携を強めている。

さらに、令和元年度には、国立大学経営改革推進事業に、本学と豊橋技術科学大学とが共同で申請した「技科大・高専連携に基づく地域産学官金協創プラットフォームの構築と全国展開による自律的な財政・マネジメントの強化」が採択された。三機関と産官金が連携して、人材育成を伴う地域社会貢献とその地域の財政基盤強化に向けた方策について検討を始めている。また、同年度には、文部科学省の「先端研究基盤共用促進事業（研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラム (SHARE)）」に、本学の「技学イノベーション機器共用ネットワーク」が採択された。本学に IoT 機器利用室を新設し、本学、豊橋技術科学大学、7 高専が連携し、新たな研究機器相互利用ネットワークモデルとして「技学イノベーション機器共用ネットワーク」の基盤を構築した。協力機関に、本学周辺の複数企業及び新潟県を加え、産官学協働による分析機器の完全・半遠隔利用を通じ、地域全体の研究開発力の向上及び高度分析技能を持つ技術者育成を進めるとともに、地方自治体と連携協定を締結し、本学の実用技術を活用して得られた利益の一部を再び研究資金として活用するビジネスモデルを確立し、双方で利益確保を図りながら地域産業の発展に貢献する。

(関連する中期計画 2-1-1-1、2-2-1-2、3-1-1-1)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画 (◆)]

- 豊橋技術科学大学及び高専機構との教育研究上の多様な交流や連携を推進するとともに、世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者を育成するための教育改革を行う。

(関連する中期計画 4-2-1-1、4-2-2-1)

- 海外教育研究拠点を整備、充実するとともにネットワーク形成を行うことで情報共有を進め、国際通用性を備え、異文化を理解した上で解決策を提案できる実践的グローバル技術者を育成する。

(関連する中期計画 4-1-1-1、4-1-1-3、4-1-2-1、
4-1-2-2、4-1-2-3)

- 多様な学習歴をもつ入学者に対する基礎教育を充実するとともに、実践性を重んじ、実社会の貢献を強く意識した技術者を育成するなど、学部・大学院を通し、地球環境と共生しつつ人類の持続的発展に寄与する技学教育を継続的に発展させる。

(関連する中期計画 1-1-1-1、1-1-3-1、1-1-4-1)

- 本学の強み、特色のある研究領域を中心に、産業界のニーズを踏まえた先進的・実践的・創造的研究を推進するとともに、大学の資源を活用して地域・社会の発展とグローバル化に貢献する。

(関連する中期計画 2-1-1-1、3-1-1-1、3-1-1-2)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、長岡技術科学大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を上げ ている	【3】 進捗して いる	【2】 十分に進 捗しているとはい えない	【1】 進捗して いない
I 教育に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		2	2		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		
3 学生への支援に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		2			
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
II 研究に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		1	1		
2 研究実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
	なし		1			
IV その他の目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
1 グローバル化に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		2			
2 豊橋技術科学大学及び高等専門学校との連携に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、2項目が「計画以上の進捗状況にある」、2項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）4項目のうち、2項目が「優れた実績を上げている」、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
学部・大学院を通し、地球環境と共生しつつ人類の持続的発展に寄与する技術者を育成する技学教育を継続的に発展させる。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「アクティブ・ラーニングの推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。
	《特記事項》		
	(優れた点) ○ アクティブ・ラーニングの推進 平成28年度に高等専門学校（高専）教員らと『授業力アップ アクティブ・ラーニング グループ学習・ICT活		

	<p>用・PBL』（実教出版）を執筆・出版した。同書は、授業科目「エンジニアリング・デザイン」の教科書として使用されるだけでなく、FDでの教授法指導書として活用されている。学内ではアクティブ・ラーニング研修や新任教員研修などで、学外では国立高等専門学校機構本部、高専、豊橋技術科学大学でのFD研修・講習に活用されている。</p> <p>(中期計画 1-1-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ アイデア開発道場の設置</p> <p>学生の主体的・能動的・創造的な学びを実践する場として、また、企業向けの人材育成事業を進めるため、令和元年度下半期にアイデア開発道場の建設に着手し、令和2年夏に竣工を予定している。アイデア開発道場は、学生と企業の社員が大学院授業科目「アイデア開発実践」（平成31年度開講）を受講する空間（ラボ）として利用され、アイデア発想や新商品、新事業の企画を行う。また、起業家養成に繋がる取組としても活用する。(中期計画 1-1-1-1)</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの高評価</p> <p>平成30年度、アクティブ・ラーニング手法を取り入れた科目数は、学部課程で65%、修士課程及び5年一貫制博士課程で58%に上がっている。開学当初から実施している実務訓練（長期インターンシップ）等のアクティブ・ラーニング的要素を含む、実践的・創造的技術者養成プログラム等による成果が、企業等から評価されている。(中期計画 1-1-1-1)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>コロナ禍に関わる遠隔授業に対しては、授業内容のほとんどをアーカイブ化して、授業を受けられなかった学生や復習したい学生が授業映像を見返し活用できる体制の整備、教員のための授業スキルアップ研究会の開催、学力に不安を抱える学生を支援する学習サポーター制度の実施など、様々な学生支援対策を実施している。1学期終了後に実施したアンケートで、有効回答数842名中711名の学生が、アーカイブを活用し、大変役に立ったとの回答が得られている。</p>
--	---

小項目 1-1-2	判定		判断理由
<p>本学の特色である学部・修士課程一貫教育をより有効に機能させ、将来にわたって活躍できる実践的・創造的かつ国際性を備えた指導的技術者を育成する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「技学 SDG インスティテュートの創設」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ アドバンストコースの導入 高専と長岡技術科学大学の教育をシームレスに接続するアドバンストコース（高専4・5年から学部3・4年と修士課程1・2年の6年一貫の協働教育プログラム）を、平成28年度からすべての国立高専を対象に実施している。令和元年度には、第3期のアドバンストコース履修生数の目標値260名を超える274名が履修している。（中期計画1-1-2-1）</p> <p>○ 技学 SDG インスティテュートの創設 実績ある実践的技術者教育にSDGs達成への貢献の観点を組込んだ教育プログラム「技学 SDG インスティテュート」を創設し、国内の工学系大学において初めてユネスコチェアプログラムとして認定されている。また本プログラムの創設及びこれまでの国際連携による実践的・高度技術者育成の実績とSDGs問題解決に向けた取組が評価され、国連から国連アカデミック・インパクトSDGsゴール9のハブ大学に任命されている。（中期計画1-1-2-3）</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 修士海外研究開発実践の開講 研究指導を目的とした「修士海外研究開発実践」を平成30年度に開講している。また、学生の履修計画に配慮して、留学中の必修科目（セミナー、実験等）の読替科目、</p>			

	<p>選択科目の設定、共通科目を新設して学生の海外渡航を促している。初年度の平成 30 年度は 2 名が、令和元年は 9 名が修了している。帰国後は成果発表を行い、今後同プログラムを履修する学生への指導にあたっている。(中期計画 1-1-2-1)</p>	
小項目 1-1-3	判定	判断理由
<p>多様な学習歴をもつ入学者に対して、技学実践者としての中核的素養・感性を養う基礎教育を充実する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>	
	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 他機関での実務経験</p> <p>実践的素養を備えた人材育成のため、日本人・留学生を問わず修士課程進学予定の学部 4 年生には企業等での実務訓練を実施している。大学院進学後は、各自で研究テーマを設定し、海外研究機関で長期研究指導を受けることのできる科目を新設し、経験を積むことで感性・状況対応力を養う教育指導を行っている。(中期計画 1-1-3-3)</p> <p>○ 修士課程での留学生の受入</p> <p>修士課程においては、学術交流協定を締結した欧州、アフリカ、南米等、世界各地の大学から留学生を受入れ(令和元年度の通年における留学生比率は 23.6%)、異文化理解・国際交流が進展している。(中期計画 1-1-3-3)</p> <p>○ 新しい学生指導の英語学習の実施</p> <p>多様な学習歴を持つ学生の英語力強化と評価に向けて、平成 30 年度から、昼休みなどの空き時間を活用し、学生・教職員を対象とした自由参加型の「新しい学生指導の英語学習 TELL」(The English Learner's Lab)を企画・実施している。令和元年度は週 3 回の講義を計 62 回実施している。(中期計画 1-1-3-4)</p>	

小項目 1-1-4	判定		判断理由
博士後期課程において、実社会への貢献を強く意識し、高度の学術的知識・能力を備えた技術者を育成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
			《特記事項》
			(特色ある点) ○ 卓越大学院プログラムの構築 平成 30 年度、文部科学省の卓越大学院プログラムの採択を受け、新産業の創成やプロデュース能力、また、情報システムに精通し、タフでイノベーティブな人材を輩出する教育研究プログラムを構築している。(中期計画 1-1-4-1)

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 3 項目のうち、3 項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-2-1	判定		判断理由
技学教育の継続的発展のために、全学の教育マネジメント体制を強化する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
			《特記事項》
			(特色ある点) ○ 修士海外研究開発実践の新設 多様性を有し、世界で活躍できる人材を育成するため、学部で実施する海外実務訓練に加えて、修士課程に「修士海外研究開発実践」を平成 30 年度に新設し、修士課程学生の海外渡航の機会を用意し、その促進のための経済的支援を行っている。(中期計画 1-2-1-1)

小項目 1-2-2	判定		判断理由
<p>技学教育を担う教員の教育力向上に向けてFD活動を拡充する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ 女性研究者に対する支援 平成29年度に、男女共同参画推進基本計画を制定して男女共同参画推進室を設置している。令和元年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業に採択され、女性研究者が活躍できる環境を整えるため、長岡高专及び地元企業と連携し、ライフイベントに配慮した研究環境の整備、女性教員の採用、復帰、上位職登用に取り組んでいる。 (中期計画 1-2-2-1)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症の状況下において、遠隔授業の実施に向けて、令和2年4月から遠隔授業のノウハウを習得するための授業スキルアップ研究会を5回実施し、講義資料の配布、教員と学生のオンラインコミュニケーション、レポートの提出、小テストの実施などが行える学習管理システム ILIAS を活用した研修を行っている。</p>			
小項目 1-2-3	判定		判断理由
<p>新たな教育内容・教育方法に対応できるよう、教育環境の整備を進める。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(特色ある点)</p> <p>○ アクティブ・ラーニング教室の新設 これまでラーニング・コモンズとして利用していた図書館棟及びパソコン室に加え、グループ討議形式での利用を目的としたアクティブ・ラーニング教室を新設している。また、授業での利用以外に、学生の自主的活動の場として</p>			

	利用が進んでいる。平成 30 年度には、昼休み等の授業時間外を活用した、学生主体（語学センターが後援）の「新しい学生指導の英語学習 TELL」（The English Learner's Lab）を、当該教室を利用して開講し、多くの学生、教職員が参加している。（中期計画 1-2-3-2）
--	--

（3） 学生への支援に関する目標（中項目 1-3）

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある</p> <p>（判断理由）「学生への支援に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「優れた実績を上げている」であり、これらを総合的に判断した。</p>

小項目 1-3-1	判定	判断理由	
<p>学生が、本学学生としての誇りと自信を持ってキャンパスライフを過ごせる環境を整備する。</p>	<p>【4】 中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学生への支援体制の強化」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>	
		<p>《特記事項》</p>	
		<p>（優れた点）</p> <p>○ 学生への支援体制の強化</p> <p>修学、生活、心身の問題等で悩みを持つ学生へのサポート体制を多方面から実施し、学生の求めに即応できる体制を整えている。令和元年度から、心療内科医が定期的に常駐している。また、学習サポーター経験者を含む学生のために、2級アクセシビリティリーダーの資格取得を支援し、14名が同資格を取得して相談体制を整えている。さらに、支援者間の連携により、学生の相談支援組織を強化している。（中期計画 1-3-1-2）</p>	

	<p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学費の減免・給付 第1期に設立し継続実施している独自のVOS特待生制度及び平成28年度に設立した大学基金奨学金給付制度、並びに平成30年度に設立したシステム安全専攻の補助金制度を活用して、学費相当の減免・給付を行って学生を学業に専念させ、また、修学意欲を持つ学生の入学・進学を後押ししている。(中期計画1-3-1-1) ○ 学生の相談体制の強化 令和2年度に向けて、学生の相談体制をより強化するため、新たに精神保健福祉士の資格を持つキャンパスソーシャルワーカーを配置することにより、悩みを抱えて大学に登校できない学生に対する対応について、大学を越えて、社会や行政に繋げていくためのケアが可能となり、自殺防止や経済的な問題で悩んでいる学生に対する的確な方策を講ずることが期待できる。(中期計画1-3-1-2) ○ 混住型学生宿舎の整備 第3期のキャンパスマスタープランで計画した日本人学生と留学生の混住型学生宿舎を平成29年度竣工し、グローバル人材の育成と異文化交流を行う場として活用している。日本人と留学生が共に生活して交流できる環境が整備されている。(中期計画1-3-1-3) 	
<p>小項目 1-3-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>学生が高い志を持って就職活動が行えるよう支援を行う。</p>	<p>【4】</p> <p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。 ○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「学生への就職支援の強化」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 学生への就職支援の強化</p> <p>平成 28 年度から就職支援管理システムを導入し、事務局と、各専攻の就職担当教員及び各専攻に設置した就職担当事務室とで学生の就職活動状況を共有した結果、就職活動現状を正確に把握できるようになり、学生個人への就職指導・支援が適時可能となっている。就職率は平成 28 年度から平成 30 年度の 3 年間の平均は 98.3%であり、中期計画で目標値とした「就職率 95%以上」を常に維持している。(中期計画 1-3-2-1)</p> <p>○ 3 年以内離職率の低下</p> <p>離職率について、3 年ごとに実施している「本学出身者就業状況調査(平成 30 年 12 月)」(回答率 56.7%)において、学生の 3 年間(平成 27 年度から平成 29 年度入社)の離職率は平均 5.0%であり、また、平成 27 年度入社 3 年以内の離職率は 6.5%となっている。これは厚生労働省が公表している同時期の離職率 31.8%と比較して非常に低くなっている。(中期計画 1-3-2-1)</p>
--	--

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる
 (判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定	判断理由
活力 (Vitality)、独創力 (Originality)、世のための奉仕 (Services) を重んじる「VOS の精神」をモットーに、本学の教育理念に共感を覚え、アドミッションポリシーに則した優秀な学生を多面的に受け入れるため、大学入学希望者の意欲・能力・適性を多面的・総合的に評価する新たな本学独自の個別選抜及び入試広報手法を構築する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している ○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 高専・技大協働教育選抜の試行 学部 3 年入学者推薦選抜において、学力の 3 要素のうち、主体性、多様性、協働性など、筆記試験では評価が難しい事項について、従前から行っている高専との協働教育プログラム (戦略的技術者育成アドバンスコース) の演習科目を活用し、演習における行動を評価して入試に活用する「高専・技大協働教育選抜」を企画し、平成 29 年度から試行を行い、令和 4 年度入学者から実施する。(中期計画 1-4-1-1) ○ 高専生への進学説明会の開催 長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学が、高専生とその保護者を対象に、合同で進学説明会を東京で開催し、技術科学大学への進学の特長や他の工学系大学との違い、研究室の様子等を両大学の教員及び在学生在が説明し、両技術科学大学を目指す学生の理解促進を図っている。(中期計画 1-4-1-2)	

II 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」、1項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、1項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
「技学」の実践を理念とし、「材料科学」、「制御システム」、「グリーンテクノロジー」などの各研究領域を中心に世界レベルの研究活動を展開し、併せて、産業界のニーズを踏まえた先進的・実践的・創造的研究を推進し、社会的な責任を果たす。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 研究活動の活性化 グリーンテクノロジー、材料科学、制御工学などの重点研究領域を中心に、学会会議や学術誌等への研究成果発表の支援や特任教員による若手研究者への論文指導等により、平成29年463報、平成30年507報、令和元年492報と発表論文数が安定して推移している。また、海外共著論文数は、平成29年115報、平成30年124報、令和元年134報と増加傾向となっている。(中期計画2-1-1-1) ○ 産業界のニーズを踏まえた研究の推進 強みのある研究領域の活動を推進するため、平成29年度に未来技術科学創造教育研究機構を整備し、欧米などの		

	<p>先駆的なイノベティブ教育や融合研究に関するノウハウを有する指導的教員や産業界等からクロスアポイントメント制度により特任教員を雇用して、若手研究者、学生への研究指導を支援し、産業界のニーズを踏まえた研究を推進している。(中期計画 2-1-1-1)</p>	
<p>小項目 2-1-2</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>国際社会・地域における本学の役割を認識し、社会の発展に貢献するための連携活動を展開し、研究の推進とその成果の社会への還元を進める。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p> <p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「海外拠点による国際共同研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>		
<p>(優れた点)</p> <p>○ 海外拠点による国際共同研究の推進 戦略的拠点地域の学術交流協定校内等に設置した海外拠点を9か国13か所体制に拡充し、現地コーディネーターを通して企業のグローバル展開支援を推進した結果、企業との国際共同研究件数は第3期中期目標期間末の目標値16件を上回る29件となっている。(中期計画 2-1-2-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 研究成果の社会還元 研究成果の社会還元を進めるため県内自治体と連携して、技術開発懇談会を開催している。自治体と当該地域産業のニーズに合うようテーマ設定等を行い、企業の方と講師、産学連携コーディネーター等と情報交換を行う場として連携を深め、研究成果の還元につなげている。(中期計画 2-1-2-1)</p>		

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定	判断理由
世界をリードする研究を推進するための研究体制を整備し、社会のニーズや地域貢献にも配慮した弾力的な人材配置と研究マネジメント体制の強化により、研究活動を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している ○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ (特色ある点) ○ 女性研究者に対する支援 女性研究者に対し、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業により優れた共同研究環境を整えるための研究助成を行っている。女性教員を研究代表者とする 8 件 14,500 千円の支援を実施している。(中期計画 2-2-1-1) ○ 若手研究者の養成 卓越研究員事業に参画し、テニュアトラック制による教員の確保と定着化を図っている。採用した教員は、産学融合トップランナー養成センターに所属させ、研究に専念できる環境を提供し、スタートアップ経費等の研究費を配分している。研究室・実験室の提供と研究活動経費等を支援する体制を整備し、若手研究者の養成に取り組んでいる。(中期計画 2-2-1-1) ○ 若手研究者に対する支援 3つの重点研究領域、グリーンテクノロジー部門、材料科学部門、制御システム部門の研究活動を推進する未来技術科学創造教育研究機構の育成部門において、特任教員による若手研究者への研究、論文指導を実施している。(中期計画 2-2-1-2)	

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
<p>地域創生のため、大学の資源を活用して、地域・社会の発展に貢献する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「鹿児島県長島町との包括的連携協定」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 鹿児島県長島町との包括的連携協定</p> <p>平成28年度に鹿児島県長島町と包括的連携協定を締結している。町の地域再生計画の策定に協力し、内閣府「地方創生推進交付金」及び資源エネルギー庁「エネルギー構造高度化・転換理解推進事業」の申請・獲得に貢献している。同町からの受託事業費53,834千円を原資として、再生エネルギー技術を活用した特産品の高付加価値化に向けた技術支援を行い、長島町の活性化に寄与している。また、同町とその他の連携において、令和元年度に「長岡技術科学大学・鹿児島工業高等専門学校長島大陸夢創造キャンパス」を開設し、連携強化に向けた環境を整備したほか、大学院生が地域おこし協力隊として長島町任期付職員に採用され、ジャガイモの種苗生産技術研究に従事してい</p>			

	<p>る。(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ NaDeC 構想の推進</p> <p>NaDeC 構想 (長岡市が市内中心部再開発事業で整備する拠点において、長岡市内 4 大学 1 高専が連携し、人材育成や産業創出等を地域全体で協働して実施する構想) を推進するため、平成 30 年度に、長岡市及び長岡商工会議所と連携してコンソーシアムを設立し体制の整備を行っている。令和元年度には、起業支援、産学協創、就職・インターンシップ、授業連携の 4 つのワーキンググループを新たに設置している。(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>○ 技学イノベーション機器共用ネットワークの構築</p> <p>令和元年度、分析計測センター内に IoT 機器利用室を新設し、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、7 高専が連携し、新たな研究機器相互利用ネットワークモデルとして「技学イノベーション機器共用ネットワーク」の基盤を構築している。(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>○ 科学技術の啓発</p> <p>高大連携室を主体として小・中高校生対象の科学技術への関心を高める取組を行い高い評価を得るとともに、長岡技術科学大学と高専の学生及び教職員が連携して SDGs 教育ゲームの製作を企画し「サイエンスアゴラ 2017」に出展して、際立った 4 つの企画に贈られるサイエンスアゴラ賞を受賞している。(中期計画 3-1-1-3)</p>
--	---

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「その他の目標」に係る中期目標（中項目） 2項目のうち、1項目が「計画以上の進捗状況にある」、1項目が「順調に進んでいる」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目） 2項目のうち、2項目が「優れた実績を上げている」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
技大式教育研究モデルを次世代の戦略的地域に海外展開することにより、海外の教育研究拠点を整備、充実するとともに、ネットワーク形成を行い、グローバル化を推進する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「グローバル化に向けた海外との連携」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ グローバル化に向けた海外との連携</p> <p>海外からの特別聴講学生及び特別研究学生の各年度における通年の合計人数は、平成 28 年度が 81 名、平成 29 年度が 101 名、平成 30 年度が 127 名、令和元年度が 129 名となり、第 2 期中期目標期間末の平成 27 年度の 72 名を上回っている。また、受入体制が整備され十分な教育研究指導を受けることのできる海外実務訓練の派遣先企業等を、</p>		

	<p>学術交流協定校、研究室間連携校の協力のもとで開拓し、令和元年度における海外実務訓練候補企業等は 21 か国 88 機関、受入可能学生数は約 140 名となっている。このうち 14 か国 45 機関で 65 名の学生が海外実務訓練を実施している。(中期計画 4-1-1-3)</p> <p>(特色ある点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 企業のグローバル展開の支援 <ul style="list-style-type: none"> スーパーグローバル大学創成支援事業により戦略的拠点地域の学術交流協定校内等に設置した海外拠点を 9 か国 13 か所体制に拡充し、企業のグローバル展開支援を推進している。これらの活動を国際的視点から評価するため、国際ビジネスの経営者、海外連携機関の代表者を外部委員とする「国際経営協議会」を平成 30 年度及び令和元年度に開催している。(中期計画 4-1-1-1) ○ 技大式教育モデルの海外展開 <ul style="list-style-type: none"> 技大式教育モデルの海外展開を行っているメキシコのグアナファト大学付属高専プログラムにおいて、カリキュラム作成を支援して工学専門基礎教育の基盤を作成するとともに、現地の日本語教員及び学生との面談を実施して日本語教育の内容を向上させている。(中期計画 4-1-1-2) ○ モンゴル科学技術大学への教育支援 <ul style="list-style-type: none"> モンゴル科学技術大学とのツイニング・プログラムにおいて、幹事校として協定の締結を行う等コンソーシアムを主導するとともに、モンゴルで前半教育を受けている学生への集中講義やモンゴル科学技術大学の教員に FD 研修を実施するなどの教育支援を行っている。(中期計画 4-1-1-2)
--	--

小項目 4-1-2	判定		判断理由
<p>国際通用性を兼ね備え、異文化理解の上で解決策を提案できる実践的グローバル技術者を育成するため、質保証を伴う国際連携教育研究を充実・強化する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「ツイニング教育への支援」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ ツイニング教育への支援</p> <p>独自開発した工学系日本語教材である『これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳』に「実験レポートの書き方」を加筆した改訂版を刊行、及び『機械工学で学ぶ中級日本語1、2』『建設工学で学ぶ中級日本語1、2』を英語とスペイン語に翻訳し、3ヶ国語を併記したトライリンガル版を刊行してツイニング・プログラム教育の支援を強化している。(中期計画 4-1-2-1)</p> <p>○ 短期留学生受入プログラムの充実</p> <p>平成 28 年度から開始した、募集対象者を学術交流協定校学生に限定しない短期留学生受入プログラム Nagaoka Summer School for Young Engineers (NASSYE)に、毎年 20 名の定員の 5 倍を超える 100 名以上の応募があり、毎年 20 名程度が参加をしている。なお参加者のアンケートからも良好な評価が確認できている。(中期計画 4-1-2-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 技学 SDG インスティテュートの充実</p> <p>平成 30 年度に認定されたユネスコチェアプログラムの「技学 SDG インスティテュート」の一つとして、従来の大学院社会人留学生特別コースに SDGs の視点を取入れて拡充した「SDG プロフェSSIONALコース」を創設して平成</p>			

	<p>30年度に入学試験を実施し、令和元年9月に第1期生が入学している。令和2年度に新規授業科目「SDGs 地球レベルでの制限と課題」を追加してプログラムの充実を図っている。(中期計画 4-1-2-1)</p> <p>○ ツイニング・プログラムの拡大</p> <p>平成30年度にモンゴル科学技術大学とのツイニング・プログラム第1期生の受入れを開始し、質保証された共同教育プログラムであるツイニング・プログラムの相手先を5か国8大学・機関に拡大している。(中期計画 4-1-2-1)</p> <p>○ 留学生への多様な支援</p> <p>留学生への生活支援、学習支援、長岡警察署や地域のボランティア団体による交通ルール講習会や生活相談会を実施することにより、地域と密接に連携した留学生の支援を行うとともに、実地見学旅行、スキー研修、交流懇談会、地域へのホームステイなどの行事を実施して留学生の大学生活を充実させ、留学生へのサポートを強化している。(中期計画 4-1-2-2)</p>
--	---

(2) 豊橋技術科学大学及び高等専門学校との連携に関する目標 (中項目 4-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「豊橋技術科学大学及び高等専門学校との連携に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-2-1	判定		判断理由
豊橋技術科学大学や高等専門学校との教育・研究上の多様な交流や連携を推進・強化し、相互の発展を図る。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点)		
	○ 高専との教育連携 高専と連携した新たな人材育成の仕組みとして高専専攻科との連携教育プログラムの構築を3高専(群馬、長岡、		

	<p>鹿児島)と進め、令和2年度からの学生受入に向け、各高専と協定を締結し、プログラムの実施に向けた検討及び準備を進め、プログラムの構築を行っている。(中期計画4-2-1-1)</p> <p>○ 高専・技術科学大学間の人事交流 高専・両技術科学大学の教員を各機関へ一定期間派遣し、教育研究活動に従事させることにより、教員の力量を高め、各機関における教育・研究の向上を図るとともに連携強化を通じた、高専・両技術科学大学全体の活性化及び人事の流動性を確保している。継続的に教員交流を実施しており、第3期中期目標期間における、高専への転出者数は14名、また、高専からの転出者は9名となっている。(中期計画4-2-1-1)</p> <p>○ 高専との共同研究 学長戦略経費を活用して公募型の高専との共同研究を毎年行っており、共同研究に高専生及び学生が多数参画し、高専一技術科学大学協働による研究指導体制を構築している。また、本共同研究の成果発表の場として、SDGsに焦点を当てた国際会議「STI-Gigaku」を開催し、学生が主体となって企画・運営を行い、英語で成果発表等を行うことにより、教育効果を高めている。(中期計画4-2-1-2)</p>		
<p>小項目 4-2-2</p>	<p>判定</p>		<p>判断理由</p>
<p>グローバル指向とイノベーション指向の人材育成を2つの柱として、三機関(長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校)の豊富な国際連携活動、地域に根差した産学官連携の強みを活かし、世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者育成改革を推進する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>《特記事項》 (特色ある点) ○ グローバル・イノベーション共同教育の推進 平成28年度、豊橋技術科学大学と協働して、グローバル・イノベーション共同教育プログラムコースを開設している。平成29年度には、グローバル・イノベーション共同教育プログラム合同運営委員会を設置して実施体制を強化している。(中期計画4-2-2-1)</p>

	<p>○ GI-net の活用</p> <p>GI-net (グローバル・イノベーション・ネットワーク) を、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、高専機構、51 国立高専で共同運用している。海外拠点となるグアナファト大学、モンゴル科学技術大学、ハノイ工科大学にも設置して、国内外で開催されるイベント、研究会、会議、渡航学生との交信等、双方向配信して情報交換、研究教育指導等に活用している。(中期計画 4-2-2-1)</p>
--	--

《判定結果一覧表》

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【4】	3.62 うち現況分析結果加算点 0.25
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【4】	3.50
小項目1-1-1 学部・大学院を通し、地球環境と共生しつつ人類の持続的発展に寄与する技術者を育成する技学教育を継続的に発展させる。	【4】	3.00
中期計画1-1-1-1(★)(◆) 学生の主体的・能動的・創造的学びを実現する教育方法を授業に広く導入し、教員による知識付与型教育から学生主体の自主的・能動的学修への転換を図り、実践性を重んじる技学教育をより一層発展させる。	【3】	
小項目1-1-2 本学の特色である学部・修士課程一貫教育をより有効に機能させ、将来にわたって活躍できる実践的・創造的かつ国際性を備えた指導的技術者を育成する。	【4】	2.67
中期計画1-1-2-1 優秀な学部学生が大学院の科目を履修できるシステムなど、高等専門学校、本学学部及び大学院のカリキュラムを有機的に連携させることにより、教育・研究におけるシームレス化を進め、大学院での海外留学、インターンシップ等の実施や、早期修了を促進する仕組みを構築する。	【3】	
中期計画1-1-2-2 意欲と能力のある学生の学力を伸ばすプログラムとして英語と数学科目で実施している習熟度クラス編成を他の科目においても実施するとともに、学習サポーター制度を活用した学習支援・基礎学力向上策により、確かな学力の形成を図る。	【2】	
中期計画1-1-2-3(★) 技学教育を海外へ普及・展開するとともに、海外からの留学生の拡大、留学生への教育支援体制の整備とともに、多様な学生に向けた学部・大学院一貫教育プログラムを拡充する。	【3】	
小項目1-1-3 多様な学習歴をもつ入学者に対して、技学実践者としての中核的素養・感性を養う基礎教育を充実する。	【3】	2.20
中期計画1-1-3-1(◆) 工学専門教育の基礎となる数学・自然科学、及び技術者として備えるべき教養と学士力や社会人基礎力(いわゆるジェネリックスキル)を身につけさせるカリキュラムを体系化する。	【2】	
中期計画1-1-3-2 高校教育からの接続を円滑にする入学前学習を高校の教員と連携して実施し、高大接続を見据えた教育プログラムを構築する。	【2】	
中期計画1-1-3-3(★) 学生の学習歴・国籍等の多様性と、海外機関・民間機関との多様な連携を活かし、豊かな感性と対話・交渉力を育てる教育プログラムを構築する。	【3】	
中期計画1-1-3-4 技術者として必要とされる英語力の確実な習得のため、評価がわかる外部試験を英語教育に組み込むなど、新たな教育プログラムを構築し、中期目標期間中にTOEIC550点以上の修士課程学生の割合を概ね4割以上とする。	【2】	
中期計画1-1-3-5 安全技術とマネジメントスキルを統合的に応用できるシステム安全エンジニアの育成のため、技術経営研究科において、実務教育やマネジメントに関する科目を充実するなど、教育プログラムの改善を図る。	【2】	

長岡技術科学大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-1-4	博士後期課程において、実社会への貢献を強く意識し、高度の学術的知識・能力を備えた技術者を育成する。	【3】	進捗している	3.00
中期計画1-1-4-1(★)(◆)	5年一貫制博士課程である技術科学イノベーション専攻において、世界の産業イノベーションをリードする経営的感覚や複眼的視野を備えた先導的技術者を育成するため、育成する人材像に即した経営・安全等の高度な学術的知識・能力を付与する3つの教育プログラムを構築する。また、技術シーズの社会実装までをやり遂げるため、国内外のインターンシップを複数回体験させる制度を構築する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目1-2	教育の実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-2-1	技学教育の継続的発展のために、全学の教育マネジメント体制を強化する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-1-1	教育の高度化・充実のための教育システムの構築、教員の教育力開発及び本学の教育力を活かす社会貢献等に関する戦略的活動を行うことを目的として、教育戦略本部を創設し、教育の活動内容を不断に見直し、教育のPDCAサイクルを全学的に確立するための、より実効性のある体制づくりを行う。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-2	技学教育を担う教員の教育力向上に向けてFD活動を拡充する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-2-1(★)	FD活動を推進するため、教員活動データベースにFD項目を加え、個々の教員の授業改善を組織的に把握、促進できるシステムを構築するなど、概ね9割の教員が活動に参加できる仕組みを整備する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-2-2	英語での高度な教育を実践するため、海外大学等における講義実践等のFD活動を充実する。	【2】	中期計画を実施している	
小項目1-2-3	新たな教育内容・教育方法に対応できるよう、教育環境の整備を進める。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-2-3-1	各学生が入学時点での学力を把握し、その後の自らの学習計画を立て、学習後の成果により自らの成長を把握できるシステムである、学習(学生)ポートフォリオの整備等により、学生主体の自主的・能動的学修を支援する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-2-3-2(★)	ラーニング・コモンズなど学生主体の自主的・能動的学修に対応する教育環境を整備し、自学自習室の収容人数を学生収容定員の概ね3割以上とする。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
小項目1-3-1	学生が、本学学生としての誇りと自信を持ってキャンパスライフを過ごせる環境を整備する。	【4】	優れた実績を上げている	2.50
中期計画1-3-1-1	本学独自の、特に優秀な学生を対象とするVOS特待生制度による入学料・授業料の減免及び経済的理由により修学が困難と認められる学生を対象とする奨学金制度による経済的支援を継続して実施する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-3-1-2	学長アドバイザーによる「学生なんでも相談窓口」及び本学大学院生が後輩の学習支援を行う「学習サポーター制度」など、外国人留学生や多様な悩みを持つ学生への相談支援体制を強化する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画1-3-1-3	日本人学生と外国人留学生が、異文化理解と国際通用性を高め、充実した学生生活を送れるよう、混住タイプの学生宿舎を整備するなど、修学環境を整備する。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	<p>中期計画1-3-1-4</p> <p>障がいのある学生が充実した学生生活を送れるよう、自動ドアやエレベータの増設など、施設のバリアフリー化を推進する。</p>	【2】	中期計画を実施している	
	<p>小項目1-3-2</p> <p>学生が高い志を持って就職活動が行えるよう支援を行う。</p>	【4】	優れた実績を上げている	3.00
	<p>中期計画1-3-2-1</p> <p>「技学」を意識した高い職業観等を涵養するキャリア形成支援及び、情報提供・就職相談を通じたきめ細やかな就職支援を行い、就職率95%以上を維持する。</p>	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<p>中項目1-4</p> <p>入学者選抜に関する目標</p>		【3】	順調に進んでいる	3.00
	<p>小項目1-4-1</p> <p>活力(Vitality)、独創力(Originality)、世のための奉仕(Services)を重んじる「VOSの精神」をモットーに、本学の教育理念に共感を覚え、アドミッションポリシーに則した優秀な学生を多角的に受け入れるため、大学入学希望者の意欲・能力・適性を多面的・総合的に評価する新たな本学独自の個別選抜及び入試広報手法を構築する。</p>	【3】	進捗している	2.00
	<p>中期計画1-4-1-1</p> <p>高等専門学校や海外協定大学など、連携の密な教育機関と入学前から積極的な情報交換を行い、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の活用や「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を踏まえた、多面的・総合的に評価する新たな個別選抜を構築し、実施する。</p>	【2】	中期計画を実施している	
	<p>中期計画1-4-1-2</p> <p>アドミッションポリシーが浸透し、それに呼応する学生が本学を受験するような、多様なメディアの活用や高校及び高専の教員、志願者、保護者等への直接のアプローチなどの手法を駆使した、質の高い広報を展開する。</p>	【2】	中期計画を実施している	
<p>大項目2</p> <p>研究に関する目標</p>		【4】	計画以上の進捗状況にある	3.75 うち現況分析結果加算点 0.50
<p>中項目2-1</p> <p>研究水準及び研究の成果等に関する目標</p>		【4】	計画以上の進捗状況にある	3.50
	<p>小項目2-1-1</p> <p>「技学」の実践を理念とし、「材料科学」、「制御システム」、「グリーンテクノロジー」などの各研究領域を中心に世界レベルの研究活動を展開し、併せて、産業界のニーズを踏まえた先進的・実践的・創造的研究を推進し、社会的な責任を果たす。</p>	【3】	進捗している	3.00
	<p>中期計画2-1-1-1(★)(◆)</p> <p>研究戦略本部が中心となり、研究に関するIRの解析結果等を用いて、新しい研究展開の芽を見出し、学内分野融合や産業界等の研究者・技術者との連携研究へと展開する。</p>	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>小項目2-1-2</p> <p>国際社会・地域における本学の役割を認識し、社会の発展に貢献するための連携活動を展開し、研究の推進とその成果の社会への還元を進める。</p>	【4】	優れた実績を上げている	3.00
	<p>中期計画2-1-2-1(★)</p> <p>国内外のものづくり地域における企業・自治体・教育機関・金融機関と連携、協働した研究や技術開発プロジェクトを企画推進するとともに、研究成果を、技術成果発表会、技術講演会、研究室見学及びHPにより発信し、社会に還元する。</p>	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<p>中項目2-2</p> <p>研究実施体制等に関する目標</p>		【3】	順調に進んでいる	3.00
	<p>小項目2-2-1</p> <p>世界をリードする研究を推進するための研究体制を整備し、社会のニーズや地域貢献にも配慮した弾力的な人材配置と研究マネジメント体制の強化により、研究活動を推進する。</p>	【3】	進捗している	2.50
	<p>中期計画2-2-1-1</p> <p>優れた若手研究者、女性研究者を養成し、高水準の研究遂行に資するため、研究室・実験室の提供と研究活動経費等を支援する体制を整備する。</p>	【2】	中期計画を実施している	

長岡技術科学大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	<p>中期計画2-2-1-2(★)</p> <p>学長のリーダーシップによる重点研究プロジェクトを推進するとともにIR推進室を組織し、その解析結果等を用いて、学長のリーダーシップによる研究企画・立案等を実施し、未来の安全・安心社会と地域創生を支える研究拠点を形成するとともに、重点研究領域プロジェクトや産学官連携活動等へ展開する。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<p>大項目3</p> <p>社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p>		[4]	計画以上の進捗状況にある	4.00
		なし	—	—
	<p>小項目3-1-1</p> <p>地域創生のため、大学の資源を活用して、地域・社会の発展に貢献する。</p>	[4]	優れた実績を上げている	3.00
	<p>中期計画3-1-1-1(★)(◆)</p> <p>地域の自治体及び高等専門学校等とも協働し、本学の強み・特色を活かした技術供与や人材育成による新技術の開発拠点形成に繋がる支援を行うことにより、イノベーション創出による新産業の創成、ベンチャー企業の立ち上げなどものづくり地域の産業を活性化させる。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>中期計画3-1-1-2(★)(◆)</p> <p>地域・社会の企業等のグローバル化を支援するため、企業と共同で「グローバル社会を牽引する実践的技術者育成プログラム」により展開するグローバル産学官融合キャンパス(産学官が融合するイノベーション指向の実践的教育、研究開発に取り組む場)を活用し、技学教育研究によるグローバルな実践的技術者の養成、中小企業の国際化及び海外進出の支援、海外へのベンチャー企業の立ち上げなど、地域・社会と共同で日本企業のグローバル展開を行う。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>中期計画3-1-1-3</p> <p>自治体の施策及び地域が行う人材育成事業等に本学教職員及び学生を派遣し協力するとともに、自治体教育委員会と連携し、小中学校及び高等学校へ理数科教育やIT教育等の支援を行うことにより、地域における青少年の科学技術への関心を高める。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
<p>大項目4</p> <p>その他の目標</p>		[4]	計画以上の進捗状況にある	3.50
	<p>中項目4-1</p> <p>グローバル化に関する目標</p>	[4]	計画以上の進捗状況にある	4.00
	<p>小項目4-1-1</p> <p>技大式教育研究モデルを次世代の戦略的地域に海外展開することにより、海外の教育研究拠点を整備、充実するとともに、ネットワーク形成を行い、グローバル化を推進する。</p>	[4]	優れた実績を上げている	3.00
	<p>中期計画4-1-1-1(★)(◆)</p> <p>スーパーグローバル大学創成支援「グローバル社会を牽引する実践的技術者育成プログラム」事業の目標達成に向け、GIGAKU教育ネットワーク及びGIGAKUテクノパークネットワークで構成されるグローバル産学官融合キャンパスを構築する。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>中期計画4-1-1-2(★)</p> <p>技大式教育研究モデルを、日本企業の海外展開を先取りした世界を牽引する次世代の戦略的地域(中南米、アジア等)の3ヶ国以上に展開する。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>中期計画4-1-1-3(◆)(*)</p> <p>国際交流協定については、不断の見直しを行う一方、優れた実績を有する大学・研究機関等との協定締結を推進することにより、大学間協定に基づく交流数として、全学生に対する日本人派遣学生の割合を中期目標期間中に3%、外国人留学生の割合を5%にまで引き上げる。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	<p>小項目4-1-2</p> <p>国際通用性を兼ね備え、異文化理解の上で解決策を提案できる実践的グローバル技術者を育成するため、質保証を伴う国際連携教育研究を充実・強化する。</p>	[4]	優れた実績を上げている	2.67
	<p>中期計画4-1-2-1(◆)</p> <p>世界で活躍できる実践的技術者を育成するため、海外の交流協定校との質の保証された共同教育研究プログラムであるツインニング・プログラム、ダブルディグリー・プログラム、ジョイント・ディグリー・プログラム等を充実・強化する。</p>	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画4-1-2-2(◆)(*) 共同教育研究プログラム及び在留関係手続き、生活相談、学内の各種情報提供等の留学生サポートを充実・強化することにより、多様な国からの留学生を確保するとともに、留学生比率を中期目標期間中に22%にまで引き上げる。	[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	中期計画4-1-2-3(◆)(*) 本学の特色ある海外実務訓練、リサーチ・インターンシップ等の海外経験プログラムを充実・強化することにより、3ヶ月以上の海外経験率(修士修了時まで)を中期目標期間中に28%にまで引き上げる。	[2]	中期計画を実施している	
中項目4-2 豊橋技術科学大学及び高等専門学校との連携に関する目標		[3]	順調に進んでいる	3.00
小項目4-2-1 豊橋技術科学大学や高等専門学校との教育・研究上の多様な交流や連携を推進・強化し、相互の発展を図る。		[3]	進捗している	2.50
中期計画4-2-1-1(◆) 豊橋技術科学大学との教育研究交流集会を定期的で開催し、連携の強化を推進する。高等専門学校と人事交流制度及び連携教員制度を活用し、高等専門学校教員の本学への受入れと、本学から高等専門学校教員への派遣を継続的に実施するとともに、技術科学分野の指導者を育成する。		[2]	中期計画を実施している	
中期計画4-2-1-2 高等専門学校教員との共同研究の実施、高等専門学校本科生・専攻科生の本学への体験実習生としての受入れ、本学教員等の高専訪問、e-ラーニングコンテンツの提供等を通じ、高等専門学校生の教育研究力向上に寄与するとともに、本学への進学への円滑な接続を推進する。		[3]	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
小項目4-2-2 グローバル指向とイノベーション指向の人材育成を2つの柱として、三機関(長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校)の豊富な国際連携活動、地域に根差した産学官連携の強みを活かし、世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者育成改革を推進する。		[3]	進捗している	2.00
中期計画4-2-2-1(◆) 海外教育拠点、広域連携教育研究用情報システム及び両技術科学大学・高等専門学校等を結ぶグローバル・イノベーション・ネットワーク(GI-net)等を活用し、長期留学プログラムの実施を始めとしたグローバル指向人材育成事業及び地域新技術モデルの実施を始めとしたイノベーション指向人材育成事業並びに教員の質の向上を目指したFD等の事業を共同で推進する。また、豊橋技術科学大学と連携・協働した教育プログラム・共同教育コースを開設するとともに、共同大学院の設置を検討する共同の委員会等を設置する。		[2]	中期計画を実施している	

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\text{当該法人における大項目「教育に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\text{当該法人における大項目「研究に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{l} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。